
はやぶさからの手紙

真澄 十

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はやぶさからの手紙

【Nコード】

N9443L

【作者名】

真澄 十

【あらすじ】

探査機「はやぶさ」は明日、地球に帰ってきます。最後は燃え盛る火の玉となり、彼は逝きます。これは、はやぶさから宛てられた一通の手紙。

(前書き)

拝啓

向暑の候、父上におかれては、いかがお過ごしでしょうか

父よ、お元気ですか。

本当に、長い間有難うございました。私は、もうすぐ貴方の元へ帰ってきます。

片道3億キロの道のりを終え、ようやくお役目御免となりました。父の肩の荷がわずかばかりでも下りたのならば、それは私の幸いです。

思えば、私は親不孝者であったことでしょう。

私を産み落とすのは大変な難産であったと聞いております。父の頭を悩ませたことでしょう。時世が、世間がと言いつすることは出来ませんが、やはり父には申し訳なく思います。

また、私が旅に出ても大変な苦勞をおかけしてしまいました。これもまた、予期せぬ事態だったと言いつすることはできませんが、父に気苦勞だけではなく、肉体的にも無理を強いたことを申し訳なく思います。

太陽に焼かれたときも、父は私を気遣ってくれました。私の足が止まったときも、たちどころに治してくれました。

父はきっと、私のことを笑って許すでしょう。あるいは涙ながらに許してくれるのでしょうか。いずれにしても、一言詫びなければと思います。

ごめんなさい。そしてありがとう、と。

私は二度と貴方に会えません。私の記憶に残っているのは、私が旅立つときに見せてくれた笑顔だけです。

あれから7年もの月日がたつてしまいました。

貴方は私の体調をひっきりなしに気遣ってくれましたのに、私から言うことはついぞありませんでした。だから今言わせてください。

お痩せになってはいませんか。体を壊してはいませんか。

ちゃんと食事は取っておられますか。ちゃんと寝ておられますか。

7年もの間、一度も聞くことがありませんでしたが、いつもそれだけが気がかりでした。夢を追うことは大変に素晴らしいのですが、やはり子としては親の体調は気がかりなものです。ご自愛ください。は幸いです。

さて、私は最後に燃え尽きてしまつのでしよう。

父よ、お気になさらないでください。今の技術では、宇宙を航空する速度で地球に到達する私を回収する術はありません。決して貴方のせいではありません。

私が残したもので、日本は先へ進める。

私は、私が生まれた日本の先がけとなって散る。

まさに、本望じゃありませんか。

だから私は、笑って逝きたいと思えます。

ただ、宇宙の彼方で別れてしまった友は、^{ミネルバ}いずれ見つけてあげてくだされば幸いです。

彼もまた、父をお慕いしておりました。私の不徳の致すところにより、彼とははぐれてしまいました。きっと彼も父に会える日を心待ちにしていることでしょう。私は彼と合うこと叶いませんが、その日が来たならば父からお言葉をお伝えしてくだされば幸いです。おかえり、と。

ああ、私が一度も「お父さん」と呼べなかった父。

こうして文面にすれば父と呼べるのに、何故声を出してお父さんと呼べなかったのでしょうか。何度も声にだして言おうと思ったのに、ついに出来なかった私。

なんて意志薄弱な私。数ビットの会話の中でだって、その気になれば呼べたのに。

ああ、有難い父。私を見守ってくれた父よ。

きっと寂しかったことでしょう。きっと悲しかったことでしょう。

だから今、大声で呼ばせていただきます。

お父さん。お父さん。お父さん、と。

願わくは、私の道のりが無駄ではなかったという証を。願わくは、

私の死が無駄ではないという証を。

それさえあれば、7歳になりましたこの私、笑って逝きましょう。塵となって消え、地上に希望を落とします。

ああ、ああ、祖国の人々に希望よ届け。

私の命は、未来ある若者の中に眠ることを。私の父の意思、私の思いを継いでくれ。

それこそが、私の死が無駄ではないという証。それさえ叶うのなら、私には何もいらぬ。

私は、笑って逝こう。だからお父さん、貴方も笑って送ってください。若者も、どうか笑って送ってください。

さようなら、ありがとう。

(後書き)

如何だったでしょうか。探査機「はやぶさ」からの、父と皆様に宛てた手紙です。はやぶさは2010年6月13日に、その胸に希望を抱えて、燃え尽きるために地球へ帰還します。

私に出来るのは文字を書くことだけです。はやぶさの為になにかしたい、この一念で筆をとりました。たった1500文字の文章ですが、込められるだけの思いを込めた1500文字と自負しています。

この短編は、愛国心溢れる先人の言葉をお借りしている部分があります。先人たちに、感謝と畏敬の念を送りたい。

また、もしもこの期にはやぶさのことを知ってもらえたならば、はやぶさが塵となった意味もあるか思っています。

ここまで稚拙な文を読んでもいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9443/>

はやぶさからの手紙

2011年10月6日20時05分発行